

福岡・天神地下街

日本最大級のWiFiストリート

福岡市の天神地下街は、開業35周年事業の一環として全エリアで公衆無線LANサービスが使える環境を構築。国内だけでなく、海外からの観光客も無料で手軽に利用できるようにし、集客増につなげている。 文◎藤田 健(本誌)

天神地下街(福岡市中央区)は、九州最大の繁華街である天神の渡辺通り直下、地下鉄空港線天神駅から地下鉄七隈線天神南駅の間を含めた約600メートルにわたって南北に走る地下街であり、2011年9月10日に開業35周年を迎えた。その記念事業の一環として、9月1日に地下街全体を無線LANエリア化し、「てんちか Wi-Fi」の名称で来客の誰もが無料で利用できる公衆無線LANサービスを開始した。

公衆無線LANを集客に活用

きっかけは、国土交通省の2010年度モビリティサポートモデル事業に採択された交通弱者向けの地下街ナビゲーションの実証実験だった。地下街を運営する福岡地下街開

発、福岡の中心地域の無線LAN化を推進している「天神・大名地域WiFi化推進協議会」、無線LAN機器を提供するPicoCELA(ピコセラ)などが参画し、2011年1月~3月まで実施したもので、高齢者や車いす利用者などにスマートフォンを所持してもらい、無線LANアクセスポイントで利用者の現在位置を特定して、目的地までの階段や段差のないルートを表示させて移動支援を行うものだった。

実験終了後、商用化を睨んだ検討が進んでいるが、課題も多く、時間がかかっているという。ただ、この時に敷設した無線LANアクセスポイントは生きていた。

天神地下街では、35周年を迎えるに当たり、より多くの集客が見込める



福岡地下街開発
管理部施設課
古川隆一氏

サービスを模索しており、地下街ナビの実証実験もその一環だった。昨今のスマートフォンやタブレット端末等の無線LAN対応機器の急速な普及により、いつでもどこでもインターネットが利用できる環境が求められている。また、天神地下街は、福岡空港から地下鉄1本でアクセスできる利便性から、国内だけでなく、海外からの観光客も多いことから、そうしたお客も手軽にインターネットを利用できる環境が必須と考え、公衆無線LANサービスの提供を決めた。

総延長1.2kmをエリア化

サービスを提供するうえで拘ったのは、「全域をエリア化し、どこにいても簡単に利用できる環境を実現すること」(福岡地下街開発・管理部施設課の古川隆一氏)だった。地下街ナビの実証実験時は全体の約3分の1をエリアにしていたので、これを全域に拡げる必要があった。実は、プロジェクトに参画したPicoCELAの無線LANアクセスポイント「PCWL-0100」はそれに最適な製品だった。

PicoCELA代表取締役の井上聡志



天神地下街は、周辺のほとんどのショッピングビルや百貨店と連結し、地下鉄やバス等の交通拠点にも接続されており、1日平均40万人の通行量がある福岡最大の地下街だ



PicoCELAの無線LANアクセスポイント「PCWL-0100」は142×118×39mm、450gという小型軽量を実現している。見通し内中継回線到達距離は約150m